



京都賞ディプロマ

心寺派の管長によるもので、受賞者にちなんだ内容のことばが揮毫されています。この時は、西片擔雪老師揮毫による「啐啄同時」という禅語です。中国宋時代に成立した、特に臨済宗において尊重される、代表的な公案集である『碧巌録』の中に出てきます。機が熟して悟りを開こうとしている弟子に師がすかさず教示を与えて悟りの境地に導くことをいいます。



英国ウォーリック大学にて名誉博士号を授与される伊藤先生
右から3番目。平成4年(1992)

ガウス賞 (IMU Carl Friedrich Gauss Prize)

ガウス賞は、数学理論やその応用研究で社会の技術発展に対して画期的な貢献をした研究者に授与される国際的な賞です。ドイツの数学者・天文学者であるガウス (Karl Friedrich Gauss 1777～1855) の生誕225周年を記念して、平成14年(2002)に国際数学連合(IMU)とドイツ数学者連合(DMV)とで創設した賞です。4年毎に選考が行われ受賞者にはディプロマ(賞状)とメダル及び賞金(1万ユーロ)が贈られます。

ガウス賞のメダルは、直径6.5cm、重さ155.5g、14金で作られ、表面にガウスの肖像、裏面にはガウスの功績にちなみ、小惑星

ケレス、軌道、最小二乗法が各々〈円〉、〈曲線〉、〈正方形〉で表され、刻印されています。メダル立ては頑丈なガラス製でマホガニーの台座には、「2006 KIYOSHI ITÔ」と金刻まれています。

ディプロマは、縦29.6cm、横21cmで二つ折りの革装です。「伊藤カリキュラス」が工学、物理学、生物学、経済学、金融工学など数学外の領域に

も貢献したことが受賞理由として英語で記されており、文末にIMU総裁とDMV総裁の署名があります。

第1回目の受賞者である伊藤先生の授与式は平成18年(2006)、スペイン・マドリッドで開催された国際数学学者会議(ICM)の開会式で行われました。ICMの開会式では、ガウス賞と共にフィールズ賞(Fields Medal)の授与式も行われます。フィールズ賞は、日本人では小平邦彦氏、広中平祐氏(1931～)、森重文氏(1951～)の3名が受賞し、数学界のノーベル賞ともいわれる大変権威ある賞ですが、受賞者の年齢は40歳以下という制限があります。一方、ガウス賞にはこうした年齢制限はありません。研究成果が応用され、現実社会に有用性を認識されるまでには、長い時間が必要であることを踏まえて設けられた賞であるからです。

伊藤先生は授賞に際してのスピーチで恩師・彌永昌吉先生について次のように述べています。

……先生はご専門の整数論のみならず、数学全般に亘って広い視野と先見の明を持っておられ、時流に乗るかどうかや近い将来の応用可能性の予測とは関係なく、自分の問題を見つけて自分の体系をつくろうとしている学生の一人一人に温かい助言と励ましを与えてくださいました……

東京帝国大学数学教室で出会って以来、彌永先生に受けた学恩への感謝の念と共に、後進の数学者へ激励のメッセージがこめられています。
(学芸員 富田ゆり・丸山美季)



ガウス賞メダル
平成18年(2006)

ミニ展示

「伊藤清一確率解析の父」

確率論研究の先駆者であり、世界的に有名な数学学者である伊藤清先生(1915-2008)の研究の軌跡を、ガウス賞、京都賞、ウルフ賞、文化勲章など、生涯に受賞した数々の輝かしい賞と共にご紹介いたします。伊藤先生は、京都大学教授ののち、学習院大学理学部数学科教授として教鞭を執るなど、学習院大学ともゆかりが深い先生です。

会期：10月14日(火)～25日(土)

*日曜・祝日、10月17日(金)、18日(土)は休館

会場：学習院大学史料館

(北別館) 内

※見学無料

時間：9:30～17:30

(土曜日は12:30まで)



第75回学習院大学史料館講座

江戸城への「御肴」上納のしくみ —白魚・鮎・鯛を中心にして—

平成26年11月22日(土) 14:00～16:00

講師：太田尚宏氏(国文学研究資料館准教授)

会場：学習院創立百周年記念会館正堂

*入場無料・事前申込不要

ミュージアム・レター第27号

2014年10月14日発行

〒171-8588 東京都豊島区目白1-5-1

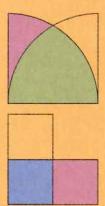
電話 03(3986)0221

内線 6569

FAX 03(5992)9219

Gakushuin University Museum of History

学習院大学史料館



●ホームページもご覧ください
<http://www.gakushuin.ac.jp/univ/ua>